

日本一空気がきれいな山形県について

全国約800カ所におけるPM2.5濃度の年平均値を、都道府県単位で集計した※1ところ、令和3年度のデータで**全国1位(最も低い値)**となりました。

順位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
1	山形県	7.0	山形県	7.3	山形県	5.7	北海道	6.2	山形県	5.6
2	石川県	8.2	北海道	8.0	北海道	6.9	山形県	6.5	石川県	5.9
3	沖縄県	8.3	沖縄県	8.2	石川県	7.2	石川県	6.7	北海道	6.1
4	長野県	8.4	石川県	8.3	長野県	7.3	福島県	7.4	岩手県	6.5
5	北海道	8.4	長野県	8.6	福島県	7.4	長野県	7.5	岐阜県	6.5

数字は年平均値

※1 全国の**大気汚染状況の常時監視**測定結果(国立研究開発法人国立環境研究所の環境数値データベース)のうち、PM2.5について集計した。

大気汚染の指標のうち、PM2.5が最も健康に影響を及ぼすとされています。また、PM2.5が低いほど遠くの景色までくっきりと美しく見え、景色の見やすさにも関係することから、PM2.5濃度の数値の低さをもって、空気のきれいさを表わす指標としています。

大気汚染の指標

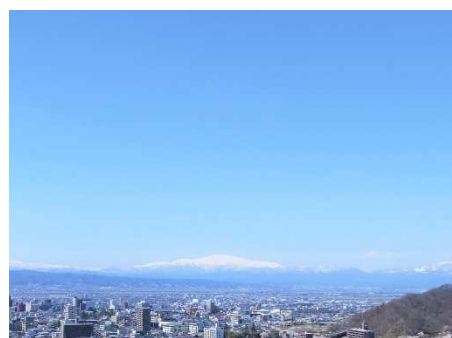
主な大気汚染物質	概要	全国的な比較評価※2
微小粒子状物質 (PM2.5)	大気中に浮遊している2.5μm以下の粒子のことで、ボイラーや自動車等から発生する。非常に粒子が小さいため肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器への影響に加え、循環器への影響が心配されているため、民間の気象情報でも注意喚起されている。全国的に基準を達成しているが、大都市圏や越境汚染の影響を受けやすい西日本で高い傾向にある。	○
浮遊粒子状物質	大気中に浮遊している10μm以下の粒子のことで、高濃度では呼吸器に影響を及ぼす。全国的に基準を達成しているが、大都市圏や越境汚染の影響を受けやすい西日本で高い傾向にある。	△
二酸化硫黄	石油、石炭等が燃焼したときに発生するもので、高濃度では呼吸器に影響を及ぼす。全国的に基準を達成し、低い数値で推移している。	×
二酸化窒素	発生源は工場車等で、高濃度では呼吸器に影響を及ぼすほか、光化学オキシダントの原因物質になる。全国的に基準を達成し、低い数値で推移している。	×
光化学オキシダント	大気中の窒素酸化物等が紫外線を受けて化学反応を起こし発生する物質で、光化学スモッグの原因となる。高濃度では粘膜を刺激し、呼吸器に影響を及ぼす。全国的に環境基準を達成していない。	×

※2 ○:比較評価ができる △:やや比較評価ができる ×:比較評価できない

情報発信について



県ホームページ パネル展示
 SNS 産業科学館
 環境学習 空気神社
 イベント (空気まつり)



・やまがた環境展

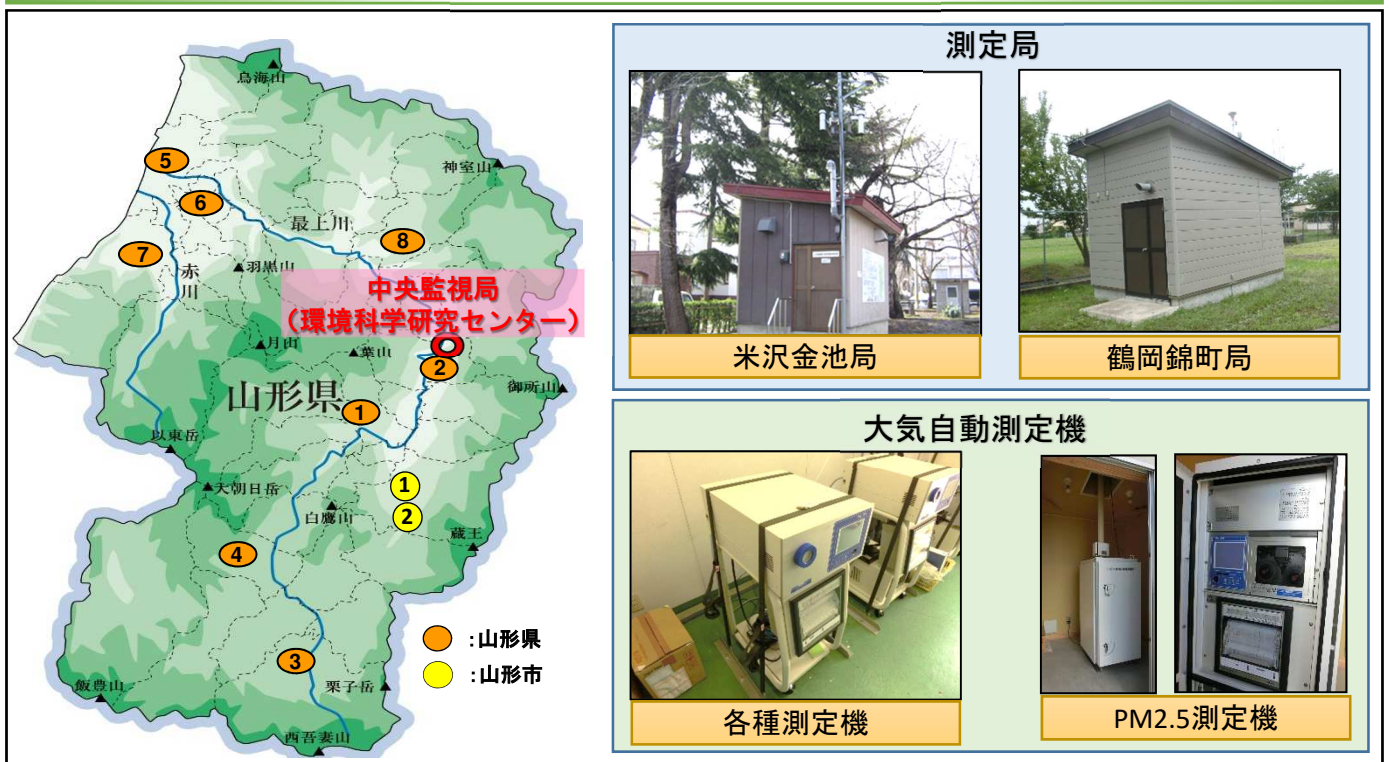
山形県内の環境大気常時監視について

県では、大気汚染防止法第22条に基づき、大気汚染の状況を自動測定機により24時間体制で監視しています。**大気汚染の状況をリアルタイムで把握**することは、大気環境の保全や県民の健康を保護するために重要です。

具体的に、県では8カ所、山形市では2カ所に一般環境大気測定局を配置して測定しています。測定データは、**テレメータシステム**で中央監視局（山形県環境科学研究センター）で収集した後、データセンターで管理をしています。その後、測定データは県のHP等に掲載し、リアルタイムで県民へ情報提供をしています。

今後も、**県民が健康で安全・安心な生活**ができるよう**テレメータシステム**による環境大気の常時監視に努めてまいります。

県内の測定局配置図



テレメータシステム

